

テクニカルディスカッション：過去の開催テーマ

2013 年 第 9 回景観・デザイン研究発表会@東京工業大学

■A セッション：はし

【座長・登壇者】

座 長：伊東靖（パシフィックコンサルタンツ株式会社）

登壇者：阿久井康平（大阪市立大学大学院）、池田大樹（大日本コンサルタント株式会社）、渡邊
竜一（株式会社ネイ&パートナーズジャパン）、大波修二（株式会社オリエンタルコン
サルタンツ）

【テーマ】

「デザイナーが取り組む構造設計と新しい造形や発想のゆくえ」～若手技術者のデザイン事例と創
意工夫から分析される構造設計者に必要な力とは？～

【概 要】

土木を中心とした景観・デザインの分野において、デザインに優れた作品は橋の分野で比較的多く
世の中に現れている。本セッションでは、近年活躍している若手技術者の報文紹介から、そのデザイ
ンが生まれたテクニカルなポイントを分析し、構造技術者が、美しい橋の景観・デザインを生み出す
手法や力点について議論する場にしたい。

■B セッション：みち

【座長・登壇者】

座 長：野中康弘（株式会社道路計画）

登壇者：高橋健一（三井共同建設コンサルタント株式会社）、黒島直一（大日本コンサルタント
株式会社）、高橋靖一郎（株式会社 LPD）、奈良照一（株式会社ドーコン）

【テーマ】

「みちの利活用とデザイン」

【概 要】

高度成長期をピークに花開いた高速道路建設時の道路デザインは、国内市場においてその機会が減
少の一途をたどっている。一方、人に親しい街路、歩道、広場などには、よりキメの細かい計画・設
計が求められている。日本において昨今定着化しつつある「みち」を「国民や地域の共有資産」と考
えた時どのような価値創造ができるか、という課題に対し、デザインが果たすことのできる役割は大
きい考える。本セッションでは「みち」に関連したジャンルの異なる 4 名の報文から、現状の「み
ち」をとりまく課題を読み取り、会場に集まっていた参加者と主に「みち」の利活用に関する
多くのヒントを集め、「みち」に関わるエンジニアがどのような素養を持ち、経験を積み重ね、活躍
しうるか議論したい。

■Cセッション：ビジネス

【座長・登壇者】

座 長：伊藤登（株式会社プランニングネットワーク）

登壇者：市川勝俊（太平洋セメント株式会社）、武藤良樹（アジア航測株式会社）、久保田善明（京都大学大学院）

【テーマ】

「デザインによるビジネスモデル」

【概 要】

建設業のビジネスモデルは、公共事業の一般競争入札によるものが多く、その市場は組織の競争レベルのことが多い。そのため、個人としては、企業が入手した仕事を改良、改善を図り顧客満足を図ることとなる。しかし、市場というものは閉鎖的なものではなく、本来は開放的なものである。建設市場の中でも着眼点によっては、大きなビジネスモデルを生み出す力もあり、ニッチな領域も存在する。ここでは、デザインという視点から新たなビジネスモデルを構築するために何が必要かを議論したい。

2014 年 第 10 回景観・デザイン研究発表会@大阪工業大学

■Aセッション

【座長・登壇者】

座 長：長濱伸貴（株式会社 E-DESIGN/神戸芸術工科大学）

登壇者：長谷川哲郎（高槻市役所）、八木弘毅（株式会社日建設計シビル）

【テーマ】

都市再生のデザイン ～駅前エリアのまちづくりとデザインの取り組みについて～

【概 要】

ここ数年、大都市圏や地方都市において、駅前再開発による都市再生の新しい試みが数多くみられる。このセッションでは、様々な事業制度を活用した官民協働による公共空間のデザイン事例や歴史遺産と対峙する駅前広場及び街路空間のデザイン事例の取り組みについて報告をいただく。駅前エリアでの街路や広場などの公共空間や公益施設を含む面的、複合的な市街地再開発事業における事業方式や協働の仕組みづくりなどの「まちづくりの視点」や計画・設計段階における都市のコンテキストの読み方や実現のプロセスなどの「デザインの視点」を論点として、都市再生デザインの可能性や課題について闊達な議論を行いたい。

■Bセッション

【座長・登壇者】

座 長：久保田善明（京都大学）

登壇者：安仁屋宗太（有限会社イー・エー・ユー）、山田裕貴（有限会社イー・エー・ユー）、阿久井康平（大阪市立大学大学院）

【テーマ】

橋の利活用とデザイン

【概 要】

江戸時代「浪速八百八橋」と言われたほど大阪には多くの橋があり、昔から水路・堀などと密接にかかわってきた地域として、地名にもその名残が多い。現存する橋では、架橋後 100 年を迎えた本町橋にて記念事業が企画されるなど、新しい橋の整備と並行して古い橋の活用も積極的に行われている。こうした橋の利活用は、今ある橋梁を永く使い続けていくことと同時に、これから創られる橋梁の在り方を方向づける重要な視点であるといえる。

本セッションでは、「橋の利活用とデザイン」をテーマとし、新設橋梁のデザインに加え、現代に残る歴史的橋梁を含む既設橋梁のリ・デザインと利活用など、今後の橋梁デザインの方向性について議論したい。

■C セッション

【座長・登壇者】

座 長：岡田昌彰（近畿大学）

登壇者：西辻俊明（株式会社現代ランドスケープ）、福多佳子（有限会社中島龍興照明デザイン研究所）

【テーマ】

夜間景観のデザイン ～大阪の夜間景観のこれから～

【概 要】

大阪府では、他都市よりも秀でた水辺の魅力を高める水都大阪実現に向けて知事重点事業が進行中である。その中でも、光環境の質を高めることで、都市の魅力を最大限に引き上げるライトアップ事業の取組もあるが、特に水の回廊といわれる川沿いの既存資産（橋や護岸）へのライトアップを活用した光の景観形成は全国的にも注目されている。

そこで、本セッションでは、中之島公園に代表される大阪の水辺を対象に、ハードのデザインや光のデザインの視点から、大阪らしい夜間景観を問い、今後の大阪の夜間景観デザインの在り方について議論したい。

2015 年 第 12 回景観・デザイン研究発表会@国土館大学

■Aセッション

【座長・登壇者】

座 長：平野勝也（東北大学災害科学国際研究所）

登壇者：中井祐（東京大学大学院）、二井昭佳（国土館大学）、小野寺康（小野寺康都市設計事務所）、末祐介（中央復建コンサルタンツ株式会社）

【テーマ（公募）】

デザインマネジメントの仕組み 各地の実践と可能性

【概 要】

土木・建築・造園などの行為により創出される空間の質を向上させることが我々技術者の責務であるとしたら、空間の質を担保するデザインマネジメントは、どのように成されるべきなのか。

従前の都市空間の姿が一変した東日本大震災の被災地域において、新たな都市空間を創出するデザインマネジメントに取り組む実践家たちの報告と今後の方向性を、会場の聴衆とともに共有する場としたい。

■Bセッション

【座長・登壇者】

座 長：佐々木葉（早稲田大学）

登壇者：吉村伸一（株式会社吉村伸一流域計画室）、大塚英典（株式会社ドーコン）、西山穂（株式会社西日本科学技術研究所）、中村創（大日本コンサルタント株式会社）

【テーマ（公募）】

近自然のデザイン

【概 要】

多自然川づくりをはじめとして、近自然工法による水辺や緑地などのデザイン事例が蓄積されている。本セッションでは国内外の事例を通じて以下の点から議論したい。

- ①近自然デザインの目的：生態系の回復のみならず護岸など河川構造物の持続性、住民活動の多様化など、近自然というデザインのスタイルによって可能となる成果は複合的である。設計者が意図する目的および副次的成果を具体的に探る。
- ②デザインプロセスの特質：デザインの過程で必要となる調査やシミュレーション、形の特定方法、さらに施工時の工夫、竣工後のケアなど、デザインを実現する過程で求められる事項を具体的に確認し、現状の土木事業における意義を展望する。

■Cセッション

【座長・登壇者】

座 長：和田卓（国土交通省道路局環境安全課）

登壇者：松田泰明（（国研）土木研究所寒地土木研究所地域景観ユニット）、井上利一（NPO 法人
電線のない街づくり支援ネットワーク）、増山晃太（熊本大学工学部附属グローバルものづくり教育センター）、細田武志（埼玉県川越市建設部道路街路課）

【テーマ（公募）】

無電柱化とまちづくり

【概 要】

昨今、「無電柱化推進法案」「無電柱化低コスト手法技術検討委員会」などに代表されるように、無電柱化をこれまで以上に推進するべく様々な議論がなされており、今後の景観まちづくりにも期待がかかる。防災の観点からは無電柱化そのものが目的とされているが、より魅力的な道路空間の形成に向けては、地上機器の設置方法や街路樹、舗装など道路空間のトータルな設計・施工技術や、多様な関係者との協働とまちづくりへの展開といった議論を進めていく必要がある。さらには、これまで対象とされにくかった郊外部の観光地やドライブルートでの地中化を進めるため、既存の地中化方式や制度に限らない、新たな技術や枠組みが求められる。本セッションでは、魅力的な道路空間の創出に寄与する無電柱化の設計・施工事例、まちづくりへの展開手法、新たな枠組みの提案について報告いただきたい。